

# 事務事業シート

—令和2年度決算—

令和3年8月  
尼 崎 市

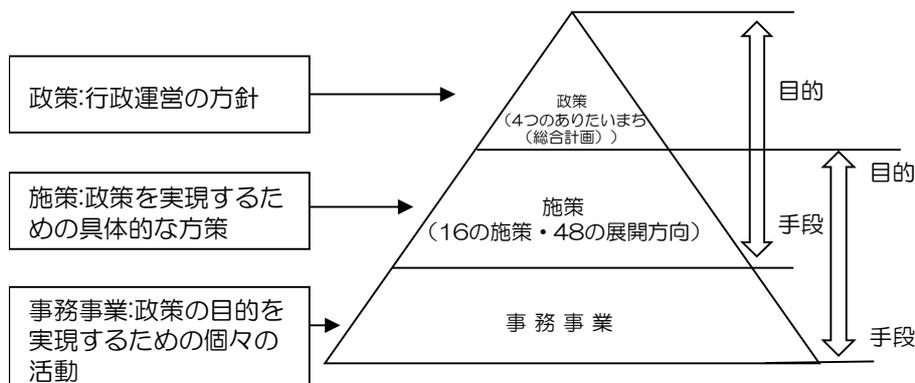


# 目次

事務事業シートの概要	4
事務事業シートの見方	6
各施策の事務事業シート	8
施策01 地域コミュニティ	8
施策02 生涯学習	26
施策03 学校教育	50
施策04 子ども・子育て支援	118
施策05 人権尊重・多文化共生	200
施策06 地域福祉	212
施策07 高齢者支援	226
施策08 障害者支援	278
施策09 生活支援	320
施策10 健康支援	328
施策11 消防・防災	392
施策12 生活安全	406
施策13 地域経済の活性化・雇用就労支援	418
施策14 魅力創造・発信	460
施策15 環境保全・創造	484
施策16 住環境・都市機能	508
行政運営等	530
施策別事務事業一覧表	564

## I 尼崎市における事務事業の点検

行政活動は一般的に、「政策」－「施策」－「事務事業」の3層構造となっており、それぞれが目的と手段の関係を持っています。(図表1)



(図表1 行政活動の構造)

尼崎市では、平成13年度より、より効果的な行政運営に資することを目的に、市が実施している事務事業の成果を客観的な指標（数値化されたもの）などを活用して評価し、その評価結果をもとに事務事業の見直しを実施してきました。

加えて、平成25年度の総合計画の策定以降、複数の事務事業の目的である「施策」という一段上位の括りから俯瞰的に振り返り評価する「施策評価」を実施し、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドを含め、次年度の予算編成につなげています。(図表2)

そうした中、平成29年度決算から「後期まちづくり基本計画」の施策体系（16の施策・48の展開方向）に事業を関連付けています。

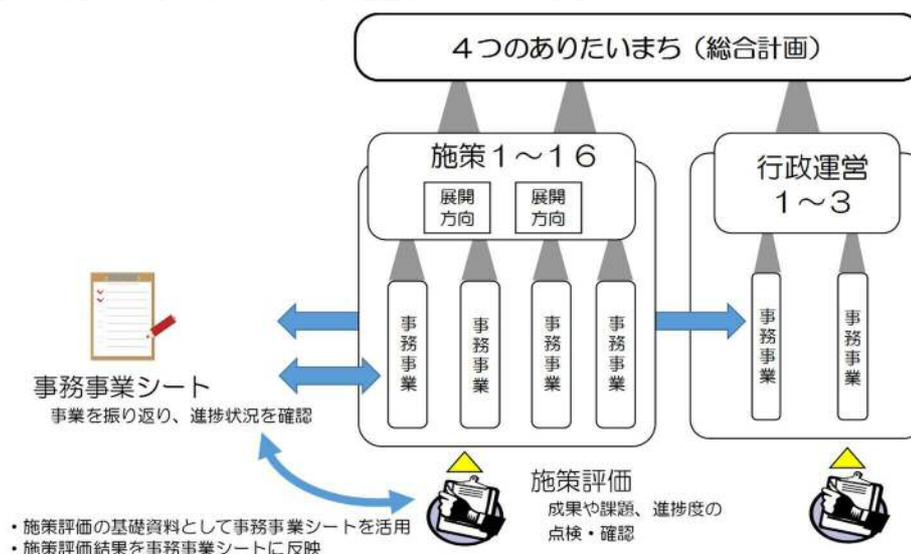


(図表2-PDCAサイクル)

## II 施策評価との連携

後期計画期間の初年度となる平成 30 年度決算からは、改めて事務事業シートを PDCA サイクルの C（Check）に相当する自己点検ツールとして位置づけ、施策評価（担当局評価）の基礎資料として事業の振り返りに活用するとともに、その評価結果を事務事業シートに反映させることで、事務事業シートと「施策評価」との関連を高めています。（図表 3）

（いずれの施策にも該当しないものは、「行政運営等」としてしています。）



（図表 3－施策評価との関連）

## III 事務事業シートの作成

事務事業の実施や手法等に裁量がある事業（ソフト事業など）について、実施内容や事業費に加え、目標指標に対する進捗状況や今後の取組方針等を「事業成果の点検」において確認するためのシートを作成します。実施について本市に裁量がない事業（ハード事業など）は、事業の進捗や費用の確認等が主となるため、施策評価表の作成時に必要に応じて確認することとし、施策別事務事業一覧表として事業費等を掲載することとしています。

なお、平成 30 年度決算からは、事務事業シートを施策評価の自己点検ツールとして位置付けるとともに、簡潔かつ分かりやすくするために記載内容の集約を行いました。それにより、施策評価との連携は高まったものの、個々の事業における今後の取組の方向性などが見えにくいといった課題も生じていました。

そういった課題を踏まえ、令和元年度決算からは、目標に対する達成状況を踏まえて「成果と課題」を記載するとともに、個々の事業における「今後の取組方針」についても、あわせて記載するよう様式を変更しています。

シート作成	事業分類
対象	「ソフト事業」、「法定事業（裁量含む）」、「補助金・助成金」
対象外	「ハード事業」、「法定事業」、「施設管理運営」、「内部管理事業」、「負担金・会費」、「その他」

以上



(このページは白紙です)